

令和4年度上大久保中学校だより

上中だより

第11号

令和5年3月1日(水)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

「バトンタッチ」

けんもつ ゆきひこ

校長 監物 幸彦

寒さの中にも、少しずつ暖かい日差しが感じられるようになってきました。3月に入り、今年度も残すところあとわずかです。3年生の教室には「卒業まであと〇〇日」という掲示があり、残り少ない中学校生活を大切にしようという気持ちが伝わってきます。

生徒の皆さんの中には、この一年間、勉強も部活も頑張り、充実した学校生活を送れた人。思い通りに成績が伸ばせなかった人。友だち関係に悩まされて、苦しい思いをした人。ストレスなくのびのびと生活を送れた人。自分をわかってもらえる存在を見いだせないでいる人。学校へ行きたい気持ちはあっても、登校できなかった人・・・のように様々な人がいると思います。そんな様々な人がいる中で、今年度最後の学校だよりとして何を書くのかいろいろと迷いました。

ここ数年、様々なジャンルの10代、20代の若い人たちの活躍が話題となっています。オリンピックでメダルを獲得した平野歩夢選手・鍵山優真選手、世界大会で活躍した卓球の張本 智和選手・伊藤美誠選手、メジャーリーガーの大谷翔平選手や将棋の藤井楓太さんなど、「この人達のように、皆さんも夢を持ち、その実現に向けて頑張ってください。」

定番の励ましの言葉ですが、何か違います。それは、たとえ夢が実現できなくても、有意義な生き方がたくさんあると思うからです。

「生きていることは、それだけで素晴らしい。命はかけがいのないものなのです。君たちは、そこにいるだけでよいのです。」これは、まったくその通りですが、ゲームばかりして勉強しない生徒に「生きていてくれてありがとう」とは言えません。

「人間の価値は、人のために尽くすことにあります。コロナ禍の医療従事者の方々のように、社会に貢献できる人になってください。」これも正論ですが、病気で苦しんでいる人に、「人の役に立ちなさい」とは言えません。

少し、屁理屈がすぎましたが、私が言いたいことは、「正しいことは一つではない。その人の置かれた環境や状況、考え方によって違うのだということ」です。

今、皆さんは、もう少しで卒業、進級という節目を迎えます。人間は、節目があるからこそ、次の成長があります。卒業・進級を境に皆さんは、新たなスタートをします。人生にはリセットボタンはありませんが、スタートボタンは何度でも押すことはできます。人生には、いろんなスタートボタンが並んでいます。そのボタンは、ちゃんと見えてる人だけが押すことができます。みなさんには、どんなスタートボタンが見えているのでしょうか。今までの中学校生活でその目はきっと育てているはずで、これからそれぞれの道で、いろいろなスタートボタンを押して様々なことに挑戦して下さい。もちろん、つらい時、苦しい時に押すスタートボタンも必ずあります。たくさんのスタートボタンを押し続け、自分の人生を豊かに、そして日本の未来を光り輝くものとしてください。

最後に3年生の皆さんにお願いします。『立つ鳥跡を濁さず』という言葉を知っているでしょうか。水鳥は水面を飛び立つ時に大きく羽ばたきますが、水はけして汚さずきれいなまま飛び立っていくそうです。また、生まれたひな鳥は、親が運んできた餌を食べさせてもらって成長していきますが、巣立つときには、自分自身で巣の中のふんを外に運び出して、きれいに掃除していくところからこのことわざは生まれたものです。君たちの中学校3年間はコロナと共にありました。思うように行事や部活動ができなくて、悲しい思いをした人も多いと思います。今まで、部活動、委員会、生徒会と3年生から1・2年生に引き継がれてきたバトンですが、いよいよ卒業式で最後のバトンが手渡されます。最後のバトンとは「上中の良き伝統」というバトンです。残念ながら卒業式には、1, 2年生は参加できません。卒業までの残りの日々を通して、後輩たちに、「上中の良き伝統」を背中で語って有終の美を飾ってほしいと思います。

一年間、本校の教育活動に、ご理解、ご協力を頂きました地域の皆様、そして保護者の皆さまに、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。